



中部横断自動車道八ヶ岳南麓 新ルート沿線住民の会ニュース

No.11 2014年4月10日 発行

石田委員長とWG委員3名 「意見交換会」を傍聴！

去る3月15日、第4回目となる国交省甲府河川国道事務所と沿線住民の会メンバーによる「意見交換会」を、関東地方小委員の石田委員長とWG委員全3名が傍聴しました。これは1月の石田委員長との面談時に「私も意見交換会がどのようなものなのか見に行きます」との委員長発言を実行に移したもので、WG委員の参加も急遽決定しました。

内容は、

- ・新ルート決定経過が不透明である事
- ・地元説明会で沢山の問題が指摘されたのに、WGは実質25分の審議で「Bルートが適当」との結論が出された為、事前に行われた検討経過を明らかにしてほしい事
- ・八ヶ岳南麓の景観・環境などの地域的特性が考慮されていない事
- ・ルート図の変更や説明会での意見の作画的な集計問題等

新たな問題点も指摘し、相変わらずの<国交省側の論理>を説明されましたが、一部は次回回答となりました。

最後に委員4人の感想が述べられました。以下一部抜粋。



中部横断自動車道八ヶ岳南麓新ルート沿線住民の会運営委員会
<連絡先> 佐々木郁子 0551-47-6260
郵便振替 八ヶ岳新ルート住民の会 00220-7-050803
<https://sites.google.com/site/odandonewroot/oshirase>

- ・皆さん声が大きくてびっくりしました。
- ・皆さんのご意見は何回もいただいて研究室にゴロゴロ転がっています。拝見していますが、(事務方とは)議論せずお帰り頂いて、よく考えて…というような状況です。
- ・「2000億円あれば救急病院がいくつも建てられる、どの様に使うかが問題、との住民意見に対し」2000億と言うのはそんなに大きいお金じゃないと思うので・・・、
- ・反対も推進も沢山意見を頂き、全部拝見して判断しているが、同じ地域の意見とは思えないほど大きな開きがあり、まだまだ地域での議論がいたると思った。

石田委員長からは

- ・皆さんの議論を伺って、これまで以上に資料を読んで議論しなければ皆さんの期待にこたえられない事を痛感したので、来た甲斐があった。
- ・我々は(長野県・山梨県)全部見通した上で、専門家、研究者としての良心に従って計画段階評価の枠組みの中で評価するので、了解いただきたい。

委員としての資質を疑うような発言もありましたが、委員4人は傍聴参加であるとし制限を加えていた為、住民側との意見交換ができなかった事が問題で、甲府河川国道事務所側の責任は大きいと思います。今後は委員側の発言の真意を探るためにも、委員と住民の意見交換の場を要求していきたいと思います。

4/19 (土) 13:30~16:00

報告会&討論会 in

いずみ活性化施設ホール

甲府河川国道事務所との意見交換会や北杜市の活用検討委員会での動きが微妙に変化しています。「総会で、もっと議論の場が欲しかった」「今どうなってるの?」と思われる方、ぜひ、お越しください。

お花見の時期ではありますが・・・



1
/
25
総
会

拙速な「まちづくりビジョン」 いまこそ真摯な住民協議を!!

活用検討委員会は、3月24日に第5回会議を行い「中部横断自動車道を見据えた北杜市まちづくりビジョン」をまとめました。

この委員会はBルート案前提で発足、第1回会議では「実質的にこのルートで決定」と説明があり、南麓を分断するルートに異議を言っても取り上げられない「官製」の委員会として始まりました。

パブリックコメントの8割が新ルートに反対か
これまでの計画の進め方を批判

そして第4回会議の前に行われたパブリックコメントには延べ108件の意見があり、その8割が新ルートに反対あるいはこれまでの計画の進め方を批判するものでした。この意見を受けて開かれた会議では、沿線住民の会も新ルートの問題性、活用検討委員会に対する疑問などの意見表明を行いました。会議の中で、ある委員は「市民の意見の対立は悲しいこと」と指摘、それを放置したままの委員会がいいのかと疑問を投げかけた意見と感じました。

新ルート前提はおかしい、議論の順番が逆では

また第5回会議では委員が、正面から「新ルート前提はおかしい、議論の順番が逆だ」「新ルートは景観という大事なものを損なう」の意見や「特Aの梨北米産地をできれば避けて」「新ルート前提という認識はなく議論してきた」等の発言を行なうなど、この委員会の位置づけの問題性や矛盾が露呈しました。

所掌外事項を別途議論する場を検討する!

当局委員や事務局も第1回委員会の発言から後退「Bルートが有力」と表現したほか「所掌外事項を別途議論する場を検討する」など、当然と言えば当然の対応をようやく考えざるを得ない事態になりました。

新年度は道路プランを議論する計画になっていますが、その前にBルートを前提とすることのない真摯な住民協議の場が設定されなければなりません。

パブリックコメントから以下引用(一部抜粋)させていただきます。

「住民意見の集約は真摯に行われているか？」

- ①次世代が誇りを持てる山岳・里山・農村景観を維持できるだろうか？
- ②景観悪化が北杜市に移り住もうとする人々に失望を与え、土地不動産の資産価値を減じることにはならないだろうか？
- ③高速道路およびICやPAなどの付帯設備開発が減じる景観の経済価値をどの程度に評価するか？
- ④「高速道路は(北杜市に)人(観光客)を呼ぶ」と短絡的に考えてよいだろうか？
- ⑤地域活性化効果の大きい滞在型・反復型観光客を念頭に、地域の魅力を高める『まちづくり』と『みちづくり』はどのようにあるべきか？」



明野廃棄物最終処分場問題対策協議会

報告 3/22 総会に参加して「完全閉鎖への闘いの継続を確認！」

昨年11月27日に横内知事は明野対策協による住民運動に追い込まれ、ついに処分場の閉鎖を表明しました。1994年、茅ヶ岳山麓の明野浅尾地区に産業廃棄物最終処分場計画が突然に持ち上がった時以来、自然環境の保護とこの地の水道水として取水される、命の水である地下水を守り、暮らしの安全を守ることを原点とした20年にわたる不屈の闘いが大きな力となり閉鎖に追い込んだといえます。

総会では、今後の方針として真の安全性の確保のため処分場に埋め立てられた廃棄物の完全撤去を求め、完全閉鎖への具体的な行動方針と役員体制は現役員の継続が確認され確認されました。沿線住民の会からも連帯の挨拶をさせていただきました。

公共が関与し、計画段階を経て処分場建設後に閉鎖を勝ち取った明野対策協の闘いは全国の住民運動においても画期的な闘いです。沿線住民の会もこの闘いに学び、これからも明野対策協の皆さんと繋がり取り組んでいきたいと思ひます。

シリーズ 私はこう思う

パブリックコメントを読んで「二つのたからものはなにか？」

大泉町 東 健治

私たちはだれでも快適で安心できる生活を求めています。「まちづくりビジョン」もそのためにあるはずです。パブリックコメントからは多くの人々が「八ヶ岳の豊かな自然」がこの地域の特性であることを明らかにしています。その特性に魅せられて多くの移住者がここ八ヶ岳南麓に居を構えていることもわかります。そして多くの人々が中部横断道新ルートの建設が地域の特性を破壊することを恐れています。以上のことから北杜市が進めている「中部横断自動車道を見据えた北杜市まちづくりビジョン」は矛盾の世界から抜けられないでいます。

新ルートが提案されて1年が過ぎ、地域の新たな課題も明らかになっています。中部横断道新ルート建設に対しての賛否両論の激突です。生活のベースにかかわる事柄になると譲歩することが出来なくなり対話自体が不可能になってしまいます。国交省の地元説明会でもこの形が見られました。この地域住民の不信感を増大させたままで良いまちづくりが出来ないことは明らかなことです。ですからまちづくりビジョン策定にあたっては地域住民相互の信頼関係を作るシステムを考える必要があります。白倉北杜市長が反対住民との対話を拒否している現実の中で、「対話による信頼関係を作るシステム」を提起し進めることができるのか大きな不安を持って見守っています。また、国交省のガイドラインでも住民参画型の道づくりが提唱されている時代を見極めてほしいと思っています。「快適で安心できる生活」には良い自然環境と良い人間関係が不可欠なのですから…。

『いりまシカ』 絵本完成！！

皆さんのお知恵を拝借したミニ絵本ができました。B4サイズに全部おさまっていて、切り込みを入れ、折ると絵本になります。

100円コピーで1冊できます。

下記のお店においてあります。(無料)

びいはっぴい

コンプレ堂

良味屋

アイリッシュパブ

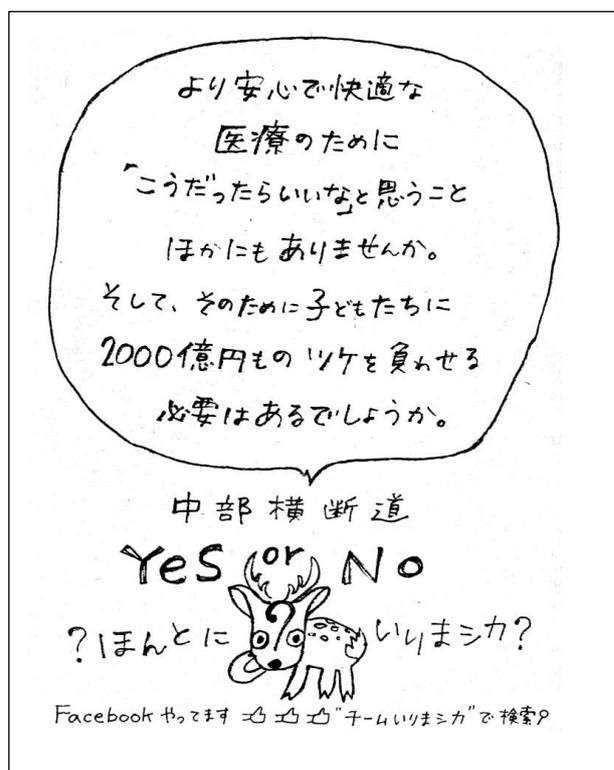
てんつくりん (萌木の村)

BIRD HOUSE (萌木の村)

INNO

engawa cafe

いりまシカマスコットもデビュー、
これからの展開がとっても楽しみです。



参加者募集中！ 沿線住民の会：春のイベント2



5/10 中部横断道双葉以南を走る 双葉から富沢まで

双葉・増穂間はすでに開通しています。片道1車線の高速道路がどのようなものなのか走って実感してみましょう。そして中部横断自動車整備計画区間となっている「増穂IC～六郷IC～富沢IC」の工事状況がどのような景観になっているのか観に行きましょう。

集合 5月10日（土）11時（高根図書館前）

スケジュール

*高根図書館からは 乗り合いになります。

- 11:15 須玉IC～増穂IC
- 12:00 鯉沢ツクタベ館にて昼食
- 14:00 富沢IC
- 16:00 高根図書館着（解散）

問い合わせ、申し込みは：<東けんじ>まで 締切：4月25日 *雨天決行

☎ 0551-45-7832 メール azuken@bj8.so-net.ne.jp

参加費（交通費として） 1000円



報告 春のイベント1 国道141号線を走る 須玉から清里まで

3月8日の午後、道路公団OB：A氏のナビゲータで須玉のおいしい市場から国道141号線の調査が始まる。「小手指の坂上から中央高速道までは自動車専用道路を作れば良い」との説明を受ける。小手指の坂上からは左右に歩道がある走りやすい道が続く。焼肉「とよしげ」で車を止める。ここからは歩道がなくなり車線幅も狭くなっている。いよいよ国交省の言う「脆弱な道路」となる。道の駅「南きよさと」長沢の信号から弘法坂に入ると山岳道路といった感じである。「現道（既存道路）は上り専用で、下りはバイパス新設で対応するなど、グレードセパレート（上下線分離構造）で充分対応できる」という説明を受ける。清里高原に入ると上り2車線道路も多くなり快適な走りができるようになる。野辺山に近いカフェで最後の講義と質疑となった。道路公団OB：A氏の「アクセスコントロールのない高規格道路は可能です」という言葉に国道141号線の改修で中部横断道を結べば良いのだとホッとした気持ちになった。

編集後記

- ◆この4月からニュースをA4判に刷新し隔月（偶数月）10日発行になった。刷新版いかがだったでしょうか。
- ◆「少女は自転車にのって」という映画を観た。因習の中に生きる少女の姿を通して未来への希望を描いたサウジアラビア初の女性監督の作品。10歳の少女の「理由のある反抗」は素晴らしい。4.26やまびこホールで上映（シネ・やまなし主催）。沿線住民の会だって、「理由がある反対運動」なんです。（あずひで）



3/8 歩道が無くなる焼肉「とよしげ」前で